

「木の酒」の魅力を世界に発信

新宮市に「KUMANO SAKE GATE」オープン

尾崎酒造

尾崎酒造（和歌山県新宮市、佐原謙次社長）が建設を進めてきた観光交流施設「KUMANO SAKE GATE」（KSG）が1日にオープンした。

同施設は日本酒の良さを訪日外国人観光客らにアピールできる施設として計画され、世界遺産の熊野三山の熊野速玉大社と新宮城址を結ぶ観光ルートの途中にオープンした。熊野川の伏流水を使った同社の日本酒「太平洋」やオリジナル商品なども販売する。

同社は、村上木材（大阪市、同社長）が森林総合研究所と特許使用許諾契約を交わし、森林総研が開発した木材から作る「木の酒」を商品化するため傘下に収めた会社で、木の酒づくりに取り組んでいる。

森林総研の試験プラントを使った試験的な生産も行っている。KSGのプレオープンイベントには開発者の大塚祐一郎森林総研森林資源化学領域微生物工学研究室チーム長が熊野杉、クマノサクラから製造した木の酒のサンプルを提供、木の酒の製造プロセスについても講演した。



施設は木造2階建て、延べ床面積324平方メートルの規模で、1階に商品展示や販売スペース、日本酒の保管庫し、プレテック（大阪市）でプレカットを行った。建築に際しては、総務省のローカル10000プロジェクト（地域経済循環創造600などの材を供給事業交付金）の補助を受けている。

営業は年中無休（不定休）。営業時間は午前10時～午後6時。また、尾崎酒造は9月10日付で、和歌山県と建築物木材利用促進協定を締結している。

紀州材を内外装にもふんだんに使用した。